

令和6年度 県立水海道第二高等学校自己評価表

目指す 学校像	(1)教育方針 ①豊かな人間性を培い、自律と協和の精神を育み、たくましい心身と優雅さを併せ持った生徒を育成する学校 ②伝統を継承しながらも柔軟に社会の変化に対応し、自らの将来を切り拓くことのできる生徒を育成する学校 ③普通科・商業科・家政科が切磋琢磨し合い、それぞれの特長を高めて社会に貢献できる生徒を育成する学校 ④家庭や地域社会等と連携を深め、協働して持続可能な共生社会の実現を目指すとする生徒を育成する学校 (2)努力目標 ①・生徒の実態に即する適切な学習指導方法を工夫改善し、授業内容の充実を図る。 ・学習に対する自主的な姿勢の育成を図る。 ②・心の教育を充実し、規範意識の向上を推進する。 ・健康・安全教育を推進し、特別活動を通して協調精神を養成する。 ③・適性・能力・興味関心等、個々の生徒の実態に応じた進路指導を展開し、希望進路の実現を目指す。 ・望ましい勤労観や職業観の確立を目指すためキャリア教育を推進する。		
	昨年度の成果と課題	重 点 項 目	重 点 目 標
本校は「キャリア重視型進学校」として普通科・商業科・家政科がそれぞれの特色を生かし、学習指導や進路指導、キャリア教育の充実に努めており、生徒の多様な進路希望に応じて一定の成果を収めている。生徒の能力を十分に発揮させ、より高い進路目標を掲げ実現させるためのさらなる学習指導や進路指導の充実が望まれる。基本的な生活習慣の身についた生徒が多いが、服装容儀や交通安全についての指導は今後も継続が必要である。平成28年度に全国大会三冠を果たしたハンドボール部を始めとした部活動も活発である。ホームページや緊急情報メール、また生徒が作成した学校PRビデオによる情報の発信も適切に行われており、開かれた学校づくりにさらに努めていきたい。	学力の向上	①授業や家庭学習に生徒が主体的に取り組めるよう、教科指導の工夫・改善に努め、魅力ある授業の展開を図る。 ②授業時間数や授業時間(50分)の確保に努める。 ③個別面談を学校全体の取り組みと位置づけ、学習意欲を高める面談指導の充実を図る。	B
	進路指導の充実	④生徒の進路意識を高め、生徒の多様な進路希望にきめ細かく対応する。 ⑤積極的な面接指導、的確な進路情報の提供、課外授業の充実に努める。 ⑥各学年に応じた進路行事や各学科の特性を生かしたインターンシップ等を通してキャリア教育を推進する。	B
	生活指導の充実	⑦毎朝の登校指導を行い、挨拶・声かけ運動の推進、毎日の清掃の徹底を図る。 ⑧豊かな心の育成を図り、服装・頭髪をきちんとさせるなど規範意識の高揚を図る。 ⑨安全教育、特に交通安全教育を推進し、交通事故の絶無に努める。	A
	特別活動の推進	⑩学校行事の企画・運営を生徒中心に行い、自主的、実践的な態度を養う。 ⑪魅力ある部活動を展開し、加入率75%を維持し活気ある学校にする。 ⑫キャリアパスポートを活用し、職業教育の機会確保に努め、適切な職業観の育成を行う。	A
	学校情報の積極的な発信	⑬ホームページや各種通信等により、教育活動の状況を積極的に発信する。 ⑭学校公開事業等を通して、開かれた学校づくりに努める。 ⑮さくら連絡網を適切に活用し、重要度の高い情報が確実に保護者に伝わるよう努める。	A
	働き方改革	⑯進路指導や学習指導の場面で業務の効率化を進めるとともに、全職員の連携により業務の分担・軽減を図る。 ⑰部活動においては、練習方法を工夫したり、交代で指導に当たるなど、従事時間の短縮に努める。	B
	授業改善	⑱ICTや板書、資料などを効果的に活用し分かりやすい授業に努める。 ⑲机間指導等をしながら生徒の学習状況を把握し、適切な助言や支援をすることに努める。 ⑳授業満足度(全教員平均値)を3以上になるように努める。(KPI)	A

三つの方針		具 体 的 目 標		評価		次年度(学期)への主な課題	
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) ①豊かな人間性を持ち、地域社会の中心として活躍できる人材の育成 ②自律と協和の精神を持ち、他者と協働できる、社会から求められる人材の育成 ③各分野の高度な知識技能を有し、スペシャリストとして牽引できる人材の育成		A	A	地域の関係機関や民間企業で必要とされる資質や能力の育成を図るとともに、地域社会の課題解決のために地域の人と協働的な活動や創造的な活動が必要である。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) ①普通科は、選択科目を多く取り入れ、多様な試験科目に対応し、希望大学への進路実現 ②商業科、家政科は専門性を高め、高度資格を有し、就職から大学進学までの進路希望実現 ③3学科横断的な学習活動とキャリア教育重視により、生徒の多様な進路希望実現		A		2学期制への変更と普通科のカリキュラムを見直したため、学力の向上と進路意識の向上に繋げていくことである。	
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) ①本校の教育方針や、特色を理解し、本校への入学を強く希望する生徒 ②学習活動に積極的に取り組み、自己実現に向けて努力しようとする生徒 ③地域から愛される本校の生徒として、高い自覚を持ち、規律ある学校生活を送れる生徒 ④部活動、生徒会活動、学校行事等の特別活動、ボランティア活動等に積極的に参加し、他者と協力し、豊かな人格の形成を目指す生徒		B		広報活動や活発化し、本校の教育方針や進路指導についてより深く理解を得る。商業科、家政科では、中学生及び中学校の先生方に専門的学習内容が学べること、普通科では、高いレベルの学校に合格できるようなカリキュラムや支援体制が整備されていることを周知していく必要がある。	
評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策			評価	次年度(学期)への主な課題	
教科指導	基礎学力の向上と入試に対応できる実力の養成を図る	基礎から応用へと段階的に学力を向上させる授業計画を作成し、学習目標が明確な授業を展開する。 ①②			B	B	学校または各教科・学年のグランドデザインに沿い、協働的に学ぶ授業や問題解決能力を培う授業を増やしていく。
		各教科で計画的に課題提出や小テストを実施し、家庭学習の習慣化と家庭学習時間の伸張を図る。 ①②			B		
国語	基礎学力の定着と向上を図る	基礎学力の定着・向上のために各種小テストを実施、また授業に主体的に取り組めるよう工夫を凝らす。 ①②			A	B	小テストや課題等を継続的に実施し、授業と連動させることで基礎力と学習習慣の定着をはかった。国語におけるICTの活用について教科内でアイデアを共有し効果的な授業を目指したい。
		ICTや板書、資料などを効果的に活用し、教材への興味関心を抱かせ、知的好奇心を育む。 ①			B		
地歴	基礎学力の向上と世界や日本の歴史的・地理的事象の学習を定着させる	基礎学力の定着と歴史的・地理的事象への関心を高める授業を展開する。 ①②			B	B	ICTを効果的に活用し、社会的事象に対する興味・関心を向上させるように意識した。生徒が協働的に学ぶ時間を増やし、歴史的・地理的な見方・考え方を身につけさせる。
		ICTや資料などを効果的に活用し、社会的事象の認識を深めさせる。 ①②			B		
公民	基礎学力の向上と現代の社会について主体的な学習態度を育てる	ICTなどを活用し、基礎学力の定着と社会の諸課題を考える力を養う。 ①②			B	B	現代社会の諸課題の解決策をグループで考察する協働的な学びを取り入れた。ICTを効果的に活用しながら、生徒が主体的に課題を設定し、解決の方策を考える授業展開を心がける。
		政治や経済の諸課題を協働的に考察し、その解決に向けた合意の形成をめざす。 ①②			B		
数学	基礎学力の向上を図る	小テストや課題等を活用し、生徒の家庭学習習慣の定着を図る。 ①②			B	B	ICTを活用し、効率のかつ視覚的に捉える授業展開の工夫を行った。グループ学習の要素を増やし、生徒の探究心を向上させるような授業改善を図る。
		教材や授業展開等を工夫し、数学の楽しさや良さを実感させるとともに、表現力の向上に努める。 ①②			B		
理科	基礎学力の向上と定着、科学的な能力の育成を図る	ICTを効果的に利用することで科学の基本的な概念や法則を理解させ、科学的に探究する方法を修得させる。 ②⑬			A	B	カリキュラム的に授業時数に余裕がなく、実験があまり実施できていない。ICT機器の活用により基礎科目の授業を充実させ、生徒の探究心をより向上させる。
		実験・観察を通して、科学的な見方や考え方を養う。 ①②			B		
保健体育	基礎体力の維持・向上を図り健康や安全に関する知識を高める	各種の運動を合理的に行う際に適切なアドバイスをするなどし、実践力を見につけさせるとともに自己の体力の高め方を学ばせる。 ②			B	B	自己の健康を管理し、生涯にわたり継続して楽しく運動に親しむ姿勢を身に付けさせられるように指導に努める。
		個人や集団における健康の保持増進、将来に向けての基本的な生活習慣の確立をさせる。 ⑧			B		

芸術	芸術を愛好する心情と表現活動の向上を図る	生徒一人一人の個性に応じた指導を行い、技術の向上を図る。	①	B	B	生徒一人一人の個性に応じながら、感性を大切にし、表現力を高め、多様な授業を展開できるよう務める。
		基礎的技能と創造的な表現の力を伸ばす。	①	A		
英語	基礎学力の向上を図る	小テストや週末課題を課すなどで、予習・復習を含め、家庭学習の習慣を身につけさせる。	①	A	B	小テストや週末課題を継続的に実施、フォローアップすることで基礎力の定着を図った。授業でのICTの活用の工夫を工夫し、さらに効果的な授業を目指したい。
		ALTや副教材、ICTを有効活用し、授業の工夫を通じてコミュニケーションをとるための基本的な姿勢と学力を身につけさせる。	①	B		
家庭	生活に必要な知識・技術の習得と問題解決能力の育成を図る	各種検定に取り組み、ICT・板書・資料などを効果的に活用し、知識・技術の向上を図る。	①⑱	A	B	専門分野において効果的にICTを活用し、知識・技術の向上に努め、各種検定にも取り組ませる。課題研究において地域探究に更に取り組み、地域との連携を強めていきたい。
		家庭クラブや課題研究など、地域との連携活動を通し自分の考えを広げるとともに問題解決能力の育成に務める。	④⑥	B		
情報	問題の発見・解決に向けた、情報と情報技術を活用する知識と技術の習得を図る	年間授業時間の5分の2以上の実習を行うことにより、情報機器およびアプリケーションソフトウェアの基礎・基本的な知識と技術を習得させ、問題解決に関連したデータの収集・分析ができる力を育成する。	①②⑱	B	B	教科書の内容をできるだけ漏れなく扱うと授業時数に余裕が生まれないことを考慮しながら年間計画を立て、実施しなければならない。年間授業時数の5分の2以上の実習では、教科書内容の未履修が発生してしまうので、座学にも重きを置いて、プログラムやデータ化における数値計算の考え方を丁寧にあつかわなければならない。
	情報社会に主体的に参画および対応するための資質・能力の育成を図る	情報の受発信者としての法令順守およびモラルやネットエチケットを学び、実習時のグループワークを通して、情報社会の一員として主体的に学び合える環境を構築し育成を図る。	①⑲	A		
	業務の効率化とICTコミュニケーション能力の習得を図る	ICTを効果的に活用した業務の効率化を具体的に提示し、PDCAサイクルによる評価・改善を行うため、自己評価、他者評価を実施し、具体的なICTコミュニケーション能力の習得を図る。	⑱⑳	B		
商業	商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を重視し、進路実現に向けた職業人としての資質・能力を育成する	魅力ある授業の展開及び上級資格取得の向上を図り、商業科に入学して良かったと思える指導体制の構築を図る。	①④㉔	B	B	・シラバスに基づいた年間指導計画と各種検定試験への対応とのバランスを考え、より良い指導を目指す。 ・ICTを活用した教材の提示、課題配信等、生徒の主体的な学習のサポートを強化する。
		IT学習、習熟度別学習、課外授業等をとらして学習の定着を図り、さらにICTを効果的に活用して、各科目の理解度を深める指導体制を図る。	①⑱⑲	B		
教務	生徒の学力向上をめざした学習指導の実施に努める	授業時間数や授業時間(50分)の確保に努める。	①	B	A	タブレットを用いた授業や課題提出など、GIGAスクール構想における学びの保護を充実させることができた。デジタル採点なども進展し、採点や評価の合理性が伺えた。次年度より2学期制になるため、課題提出や小テストを計画的に立てるとともに、生徒の変容・成長ぶりを半期というスパンで評価したい。
		わかる授業を目指して、生徒が主体的に取り組むことができる教科指導の充実・改善を図る。	①	A		
	学習に対する積極的な姿勢の育成を図る	各教科・学年との連携を図り、家庭学習の習慣化と内容の充実を目指す。	①	B		
		個別面談等で生徒理解を深め、生活や学習活動についての確かなアドバイス及び支援をしていく。	③	A		
	情報機器の維持、成績処理の援助、情報発信の充実	情報機器の維持及び適切な管理に努める。	①	A		
		校務支援システムの円滑な運用に努める。	③	A		
		さくら連絡網の活用やホームページの更新を通して、情報発信の充実に努める。	⑬⑮	A		
	生徒の学習や文化・芸術的素養の伸展を支援するため、図書館の充実を図る	図書館の環境を整備し、利用しやすい図書館にする。	①④	A		
		図書館報と新刊本案内発行などの図書関連行事の活性化を図る。	①⑭	A		

生徒支援	基本的生活習慣を確立させる	毎日の登下校指導時に挨拶、声かけを積極的に行い、職員の共通理解のもと、遅刻指導や服装指導に当たる。	⑦	A	A	服装等は登校時の指導を継続した結果、正しい制服着用につながっていると思われる。今後も生徒の実情に即した形を模索しながら継続した指導をしていく必要がある。交通安全・薬物・情報モラル等の講習会を実施した結果、今年度も問題行動や交通事故等は低い水準で抑えられている。ただし、自転車・バイク等での事故が見られるので、自転車のヘルメット着用等を含め、啓発を行い、事故の減少に努める必要がある。
		学年間の連携・協力体制を強化し、共通理解・共通認識のもと全職員で服装・頭髮指導に当たる。	⑧	A		
	交通マナーやモラルを向上させ、事故防止に努める	マナーアップ教室、薬物乱用防止教室、LHR等を通して規範意識の向上と豊かな人間性の育成を図る。	⑧	A		
		交通安全講話、バイク実技講習等の安全教育を充実させ、交通マナーの向上を図り、事故防止に努める。	⑨	B		
保健安全	生徒の健康の保持増進を図る	保健調査及び定期健康診断をもとに個々に合わせた保健指導を行う。	①～⑪	B	B	今年度はコロナ、溶連菌、マイコプラズマ、インフルエンザなど多様な感染症が流行し、出席停止となる生徒数は引き続き多かった。次年度以降も状況に応じた感染症予防と対策は必須である。また、様々な理由で精神的な不安を抱える生徒も増加傾向が続いている。学校全体としてそのケアにあたるシステム作りや取り組み方を構築することが大切である。生徒の健康維持と安全な学校環境整備のために、職員間の情報の共有をさらに進める必要がある。
		感染症予防並びに拡大防止に努める。	①～⑪	B		
		教育相談体制を充実させ、より良い生徒支援を行う。	①～⑪	B		
	学習環境の美化及び整備に努める	生徒が安全な学校生活を送るための点検や校内巡視を行う。	①～⑪	B		
		全生徒による大掃除と年2回のワックス塗りを行う。	①～⑪	B		
		校内のゴミの分別と減量化を図る。	①～⑪	B		
進路支援	生徒個々の進路希望を実現させるためのさまざまな働きかけや支援をする	進路室資料の充実と利用しやすい環境づくり、及び進路希望に応じた適切な進路情報の提供を行う。	④⑤⑥	B	B	各学年の進路ガイダンスは、専門学校中心になりがちな面もあるため、今後は大学選びや学部選択の幅を広げる工夫につなげたい。就職に関しては、本校あての求人以外から選択する場合は、厳しい結果となることが多く注意が必要である。公務員希望は、低学年から外部講師による校内の対策講座は効果的で、今年は複数合格者もいる。一方で合格は見通しが立ってづらい現状にあり、不合格後の対応が不可欠である。進学では、年内入試の総合型選抜や公募推薦受験者がさらに増加し、生徒の自主的な選択の動きが強まった。国公立希望者は今年も複数名出ている。入試方法も日々変化しているが、合否につながる情報や過去問のほか、参考になる指導法など共有できるものを、次年度に生かせるよう環境を整えていきたい。
		各学年に応じた進路ツールや進路ガイダンス及び講演会の実施と個別の面接指導や課外授業などの充実を図る。	④⑤⑥	A		
	3年間を通じての体系的な進路指導体制の構築を図る	生徒の進路意識の推移を分析・検討し、課題を明確化する。	⑤⑥	B		
		3年間を見通した進路指導につながるよう、定期的な部会を開いて、各学年の進路課題や情報の共有を図る。	⑤⑥	B		
学習企画	3年間を見通した「探究の時間」の進め方の構築を図る。	多様な進路実現に向け、将来に生かせる探究学習の充実を図る。	④⑤⑥	B	B	各学年の協力により「探究の時間」を進めることができた。外部機関へのアンケートやインタビューを行うなど積極的に探究活動をする生徒の姿が見られた。大学公開講座へ参加する生徒は数名いたが、来年度は周知を徹底し参加生徒がさらに増えるようにしたい。キャリアパスポートについては行事ごとに生徒に必要な事項をフォームで入力させ、回答をWordに変換してデータ化しているため、学年や担任等による活用が見込まれる。
		大学公開講座の参加推進と地域連携を図る。	⑤⑥⑫	B		
		キャリアパスポートを活用し、職業教育の機会確保に努め、適切な職業観の育成を行う。	⑫	B		
渉外	PTA行事への保護者の参加を積極的に呼びかけ、家庭との連携を密にする。	PTA役員会・PTA総会・学年PTA・PTA関東大会及び全国大会への積極的な参加を呼びかけながら、開かれた学校づくりに努める。	①～⑩	B	B	次年度も引き続き、保護者と連携しながら、PTA活動を活性化していく。

特別活動	文化部・運動部及びホームルーム活動の活性化に努める	部室や練習場の清掃、挨拶の励行を通し、生徒の意識改革を促す。	⑦⑩⑪	A	B	御城祭は、令和初の一般公開にて実施できた。体育祭や野球応援なども持続可能な形態で実施できるように反省点を洗い出して改善することができた。次年度、さらに生徒会や行事の実委員に主体性を持たせ、引き続きHRと連携を密にして学校の活性化を目指す。
		様々な大会へ積極的に参加して、活気ある部活動を目指す。	⑪	B		
		生徒会行事等を通して自主的な活動によりHRの連帯感を高める。	⑩	B		
		生徒会とHRの連携を密にしてLHRの意見を反映し学校の活性化を目指す。	⑩	B		
第1学年	基本的生活習慣の確立を目指す	時間や行動の自己管理能力向上を目指し、遅刻を減らし、校則を守らせる指導をする。	⑦⑧	A	A	落ち着いた学校生活を過ごせるように、学年団が一丸となり、生徒の様子の把握に努めた。学校生活に馴染めない生徒もいたが、各担任が生徒に寄り添って対応することができた。次年度の課題としては、生徒の進路選択に応じた学力を維持し、希望によっては向上を目指すことが挙げられる。
		挨拶を始めとするコミュニケーション能力を高め、より良い人間関係を築く力を育む。	⑦⑧	A		
	基礎学力の向上を目指す	個人面談や進路学習を重ねて進路を明確化することで、授業や自宅学習に意欲的に取り組ませる。	①③④	A		
		ICTを活用した授業を工夫し、各学科の特性が活かせるように設定されている課題にもきちんと取り組ませる。	①⑤	A		
	豊かな心の育成を図る	部活動等の教科外活動に積極的に参加させ、他者との協調を図りながら自ら考え動く意識を高める。	⑩⑪	B		
		教室の環境や生徒間の人間関係に配慮し、落ち着いて学校生活ができる環境を整える。	⑩	A		
第2学年	生活指導の徹底と心豊かな人材の育成	服装頭髪指導、遅刻指導、清掃指導を徹底し、落ち着いて学校生活を送れる環境を整える。	⑦⑧	A	A	生徒指導の徹底と心豊かな人材の育成に努めた。学校行事や修学旅行を通して、集団生活の中で自身の役割を考え行動することができた。しかし、学校生活に不安を抱えている生徒も見られるので、保護者との連絡を密にして対応にあたりたい。普通科の探究についてグループ活動の成果を来年度にどのように継続させるかが課題である。進路実現のために教員間で連携し、生徒支援を行う必要がある。
		学校行事や部活動を通して、自ら考え動くことができる人材となれるように指導する。	⑩⑪	A		
		規範意識を養い、人のかかわり方を学びながら集団生活の中で自身の役割を果たせるよう支援する。	⑧⑩	A		
	進路希望を明確化し、その実現への努力を促す進路指導	進路別バス見学会や進路ガイダンスを通して、適切な進路選択に必要な進路学習をさせる。	④⑥	A		
		生徒との個別面談を密に行うことで生徒理解を深め個々の生徒がライフプランを真剣に考える支援をする。	④⑤	A		
		学年通信や保護者面談資料などを通して、進路情報を保護者に適宜提供する。	⑬⑭	A		
	授業を中心に据えた学習指導	授業への積極的な取り組みを促し、さらに、授業を活かすための家庭学習の定着を図る。	①③	B		
		学年と授業担当者が連携して、学習の遅れている生徒に細やかな指導をする。	①③	B		
		平常課外や長期休業中の課外を実施して、授業の学習内容を深く理解できる場を提供する。	①⑤	A		

第3学年	学力の向上を図り、個々の生徒の進路実現を目指す	家政・商業・普通科それぞれの学科の特性に合わせた指導を行い学力の向上を図る。	②	A	A	個々の生徒に応じた進路実現のため、個別面談等を実施し、きめ細かい指導をすることができた。進路指導については、面接指導や小論文指導など計画的に実施し、志望理由を明確にするための早めの対策が必要である。年内入試が増加しているため、推薦・総合型選抜を意識させることも必要である。生徒指導に関しては、進路が決定した後の欠席、遅刻が増えたため、服装等の指導とあわせて学年全体で行っていく必要がある。
		各種のガイダンスや個別面談等を実施し、個々の適性能力に応じた進路希望の実現を目指す。	④⑤	A		
	生徒指導の徹底及び基本的生活習慣の充実を目指す	保護者との連携を密にし、基本的習慣の充実に努める。	⑦⑧	A		
		社会のルール遵守し、モラルの向上に努める。	⑦⑨	A		
		生徒支援部との連携を図り、日々の生活を通してよりよい高校生活の実現を目指す。	⑦⑧	B		

※ 評価規準: A:十分達成できている B:達成できている C:不十分である D:できていない